

活動テーマ

皆野町日野沢地区及び、金沢地区における魅力再発見

皆野町金沢地区・日野沢地区 十文字学園女子大学

1 活動目的

第一の目的は、地域行事への積極的な参加、協力を行うことである。その上で、地域の自然・文化・社会的資源の再発見、再創造を目指す。地域には伝統的な行事や豊かな自然が広がっている。それらを支援隊員が肌身で感じて再発見を行う。人がどのように関わり合って地域がつくられてきたのか、地域の自然や伝統はどうやって受け継がれていくのか。そうした事実を学び取る。その上さらに次の世代へとつなげる知恵や技を再創造する。

第二の目的は、この活動で得た学修成果を地域に還元することである。地域の自然を生かして行う農作物の栽培・収穫、自然・文化・社会的資源を外部に発信するために実現可能な地域支援の構想を練る。

第三の目的は、日野沢地区・金沢地区における地域支援活動のフォローアップである。先輩方が築いてきた成果を継続させ、金沢地区では「たたらの里加工センター」において職員との交流を行う。日野沢地区では元皆野町の町長である石木戸道也さん亡きあと、ご子息の石木戸純治さんのもとで農作物の栽培・収穫や鳥獣害駆除を経験する。

2 活動地域の現状

皆野町は秩父郡に位置しており、北に埼玉県観光名所である長瀨町、南に埼玉県一の面積を持つ秩父市に挟まれている。自然に多く囲まれた豊かな地域である。面積は 63.74 km²で、2026年2月現在での人口は 8,691 人である。

皆野町には、美の山公園、高原牧場ポピー、秩父華厳の滝、親鼻橋 SL、ハイキングロードなど、自然を存分に生かした観光資源が多くある。また毎年5月3日に萩神社（金沢地区）にて開催されるつつじ祭りや毎年3月下旬に行われているカタクリ祭（金沢地区）など自然にふれるイベント行事がある。県の有形文化財に登録されている出牛（じゅうし）人形浄瑠璃や秩父音頭発祥の地として知られている。

3 活動内容

①日野沢地区での農作業支援活動

石木戸純治さんからお父上の道也さんが残した農場の管理運営を引き継いだとの連絡があり、引き続き、日野沢地区での取り組みが継続した。その中で純治さんからは日野沢の自然環境を生かしたホテル観賞会が毎年実施されており、その運営に関わることについてアドバイスをいただき支援隊員が参加した。日野沢地区は秩父華厳の滝などの観光資源を持ち、地区を流れ下る川の流が美しくきれいである。ここを生かしてホテルの生息域を守る取り組みをしている。さいわい旧日野沢小学校の跡地には駐車スペースやちょっとした飲食を提供するテントなどを張る場所があり、来訪者をもてなす工夫が可能である。地域内は道路の道幅が狭いところが点在しており、自家用車での来訪には制限があること、町営バスは本数が限られており、

臨時のバスを運行するなどして来訪者のアクセスを支援していることなどいくつかの課題があった。農作業の支援活動は、4月26日に実施した。

②金沢地区での事業承継支援

金沢地区のたたら里加工センターについて、事業承継をすすめている岡野直樹さんとの交流を深めた。岡野さんは、ジビエのハムやソーセージを製造し、販売する事業を進めつつ、養蜂やビール造り、ラーメンの出汁づくりなど、多方面にわたって事業を展開している。その中で、加工センターの事業をいかにして受け継いでいくかという課題に取り組んでいる。今年度は、施設の契約を済ませたということで、原料となるもろこしの栽培に取り組んでみたものの、天候や土壌環境に阻まれて、思うような展開ができなかったとのことである。

③日野沢地区での子ども食堂への展開

石木戸純治さんの提案により町職員の嶋田政則さんから地域の実情を教えていただき、今後、高齢化や少子化が進むこと、その中で特定の地区での活動には限界があり、町全体を視野に入れた支援活動が必要ではないかという提言をいただいた。その過程で、子ども食堂を展開している地域おこし協力隊員の沼子静焯さんをご紹介いただき支援活動に入った。10月12日にみなちゃん食堂の支援活動を行い、その中で1月6日と7日の2日間にわたる宿題教室の企画をふるさと支援隊が中心となり実施することとなった。

4 成果

① 日野沢地区の魅力を再発見することができた

昨年度まで故石木戸道也さんの案内で日野沢地区の名所を実地踏査した。その過程において「日野沢マップ」および、「日野沢マップ改訂版」の制作をすすめた。金沢地区では交通網の整備状況が必ずしも芳しくない中で、外部からの来訪者を多くは呼び寄せられないという状況であった。対照的に日野沢地区では初夏のホテル観賞会において多くの方がホテルを楽しみにしてこの地を訪ねている。

② 日野沢地区のスタンプラリーを企画

昨年度までに制作した「日野沢マップ改訂版」を参考にし、この中の7つの拠点をめぐるスタンプラリーを企画した。

③ たたら里加工センターの事業承継

事業承継する岡野直樹さんとの交流を展開し、今年度は、特に岡野さんの展開している事業である養蜂事業やジビエを活用した食材づくり、食材の販売、地ビールの企画と製造販売などについて、直接お話を伺った。岡野さんによれば、昨年10月に正式に「たたら里加工センター」の施設に関する契約を済ませたところで、今後は、同センターが従来から製造してきた製品を作るための原料を生産する活動に取り組むということである。

5 課題

① 地域の中で、地域の方が取り組みを続けていくこと

元皆野町長の石木戸道也さんの計報は、私たちにこうした取り組みのきびしさを強く印象づけた。金沢地区の四方田忠則さん、高橋富美子さん他、地域の方々のご高齢である。今しかできないこと、今できることを意識しながら、活動をすすめることが大事であると感じた。今後の活動では、人びととの出会いを大事に、かけがえのないつながりを活かして、取り組んでいくことが必要であると強く感じた。特に、金沢地区のたたら里加工センターに関して、事業承継を見守るという目的で岡野直樹さんとの関わりが継続した。岡野直樹さんは、マスコミでも大きく取り上げられ、地域の

次のリーダーとしての活躍が期待される場所であるが、地域おこし協力隊員との関わりにおいて、若干のずれ違いなどもあり、同じ町内での活動に、さまざまな困難があることがわかった。同じようなボランティアに関わる方たちも、一枚岩とはいえないわけで、その間の潤滑油として、ふるさと支援隊のような斜めの関わり合いが大事であると実感した。

② 金沢たたらの里加工センター

高橋富美子さんを中心とするセンターの活動は、岡野さんへとバトンタッチされることになる。今後、この事業が円滑に移行して、新たな時代を築いていくことと思う。いつの時代にも、先輩から後輩へと受け継がれていくものがある。そうした事実を実際に現地で学び取っていきたい。センターの事業承継にあたっては、原料の生産や加工、商品製造の人手、技術など、乗り越えなければならない課題が多い。岡野直樹さんは、ご自身の事業であるジビエ食材の販売やオリジナルビールの製造、養蜂など、幅広く事業を展開しており、アントレプレナーシップを体現する方である。岡野直樹さんとの交流は、3年生を中心に展開したが、次年度の取り組みが継続できた場合には、引き続き同じメンバーで交流を深めていくことができると思われる。

③ 支援隊員の組織

新入生が減少すると、一つのゼミ当たりの人数が減る。多いときには、14名のゼミ生がいたが、今年度は、3年生4名、4年生3名である。来年度は3名となる。こうした少人数のゼミは、机上の学修にとっては効果が高いが、フィールドワークにあたっては、チームとしての取り組みにおいて制約を受ける。共通教育の「総合科目」や「課題発見・探究ゼミナール」、「総合ゼミナール」などのカリキュラムを開発し、受講生が増えてきたが、そうした科目の場合、半期ごとに受講生が入れ替わってしまう。一年を通じ支援隊として活動していくためには、中核となるチーム（メンバー）が必要である。今後の検討課題である。近年は、卒業生の参加があり、支援隊OGの活躍が見られるようになってきた。今年度は、2018（平成30）年度入学生で金沢地区の支援隊員であった卒業生がさまざまな活動で支援隊員を支えた。また、2008（平成20）年度入学生で小川町腰越地区の支援隊員であった卒業生が自身の勤務する専門学校の学生を連れて参加した。こうしたつながりが出てきたことで在学する支援隊員たちの意欲が向上してきた。多世代の学生、卒業生が関わることができるということも、ふるさと支援隊のひとつの魅力となっている。

6 次年度以降の計画

① 週一回のゼミナールにおいて、地域活動への理解を深め、地域でのフィールドワークを展開した。今回は、日野沢地区についてのスタンプラリーを企画し、金沢たたらの里加工センターの事業継承を見守り、子ども食堂の活動をサポートするなど、地域の活動を主に側面から支える活動を行った。今後は、さらに企画中のスタンプラリーを活用し、交流人口である都市生活者をつなぎ、対象地域を支援する方策を検討したい。

② 今年度は、お亡くなりになった元皆野町長の石木戸道也さんのご長男である純治さんがお父上の遺志を継いで農場を管理されるということになった。しかしながら、純治さんからは、日野沢地域でのリーダーたちの高齢化が著しく、ご自身も働き盛りとあって、皆野町観光協会の協会長としての職もあることから、特定地域での活動の限界が示されたように思う。嶋田政則さんとのつながりで、地域おこし協力隊員との交流が実現したことは、そのひとつの現れである。来年度において、ふるさと支援隊に応募する機会に恵まれたとすれば、その際は、対象地域を拡大し、皆野町全域を包み込むような支援が進められれば、金沢地区のたたらの里加工センターの事業承継や子ども食堂での食材提供など、さらなる展開が期待される。特に、2010（平成22）年度から継続してきた埼玉県比企郡小川町腰越地区との関わり合いを生かして、こんにやくづくりや手打ちうどんづくり、手打ちそばづくり、さらに、その原料となる小麦やそば、こんにやく芋の栽培などのノウハウを応用

していく可能性もある。

③ 今年度の活動では、皆野町において2回目の実施となる地域交流会（2月22日「みんなで皆野まちおこし万博」）があり、皆野町で活動している団体が横の連係をとる機会となった。ここでは、昨年度のポスター発表に加えて、皆野町からの要請で子ども対象のワークショップを行った。こうした機会を捉えて、地域の方たちの願いを形にする活動に取り組んでいきたい。

④ 金沢たたらの里加工センターにおける活動については、事業を承継した岡野直樹さんを中心とするグループとの交流が継続できる。岡野さんは、皆野町においてジビエの食材を開発し、販売する事業を展開している。これまで取り組まれてきた「たたらの里加工センター」の商品も、引き続き、製造・販売にあたりたいとのことである。岡野さん自身の事業としての取り組みである養蜂についても、日本蜜蜂の保護、保全に取り組むという大きな意義とともに、ミツバチが活動する農場の整備として、レンゲ畑をつくっている。ここでは、ミツバチの天敵であるスズメバチを除去することが課題となっているとのことであり、そのためのノウハウを学ぶ必要がある。



4/26 椎茸の駒打ち



7/5 ホテル観賞会



9/21 町政学習会



10/12 み～なちゃん食堂



1/6 宿題教室



1/21 岡野直樹さん